

# 沖縄科学技術大学院大学（仮称） 設立構想の実現を目指して

沖縄科学技術大学院大学（仮称）設立構想が尾身元沖縄及び北方対策担当大臣により提唱されて以来、早や三年が過ぎました。これまで、大学の開学に向けた取組みが着実に進められてきており、県民の皆様の関心や期待も高まってきています。

内閣府沖縄振興局新大学院大学企画推進室

本誌では以前、恩納村への予定地決定について特集を組みましたが、今回はそれ以降の主な動きについてご紹介します。

## 1 関係閣僚による申合せ

昨年十二月十九日に、内閣官房長官、財務大臣、文部科学大臣、そして茂木沖縄及び北方対策担当大臣・科学技術政策担当大臣の関係四閣僚により、

- ① 大学が設置されるまでの間の措置として、沖縄の研究基盤の整備等を行う法人（整備法人）を平成十七年度中に設立すること
- ② 大学の開学については、整備法人に所属する国際的に卓越した研究を行う主任研究者が五十人程度に達した時点を目処とすること
- ③ 平成十六年度に、施設の基本設計等を実施することにより本構想の事業化を図ること

これにより、本構想が検討から事業化へ移行し、また、内閣府だけでなく、政府を挙げて推進していくことが確認されました。

## 2 先行的事業の実施

内閣府では平成十五年度より、大学の開学に先駆けて、世界の研究者とのネットワークをつくり、研究実績を積み重ねるために、先行的事業として国際シンポジウム・国際ワークショップ及び研究事業を実施しています。

### ① 第一回国際シンポジウム

昨年十月十六〜十八日、万国津梁館（名護市）において開催されました。国内外の科学者、学生等三百五十一名が参加し、生物科学、情報科学、ナノ科学などの異なる学問分野の融合の可能性について、特別・基調講演、分科会、パネルディスカッションなどを通じた議論が行われました。

### ② 第一回国際ワークショップ

今年三月十四〜十九日、ホテル日航アリビラ（読谷村）において開催されました。講師として著名な科学者十七名、受講者として若手研究者や大学院生等四十六名が参加し、「酵母に係る融合科学」をテーマとして、講義、ポ

スターセッション、自由討論などが行われました。

### ③ 研究事業

今年二月六日に、世界最高水準にふさわしい四件の研究課題が採択され、具志川市の沖縄科学技術研究・交流センターを



「ロボットねずみ」を使った研究の模様

拠点として研究が開始されています。多くの視察者が訪れるなど、大きな注目を浴びています。

第1回ボード・オブ・ガバナーズ会合の模様



が学長予定者には選ばれたなど、大きな成果がありました。

## 4 今後の動き

現在、整備法人設立のための所要の法案をできるだけ速やかに国会に提出すべくその作成作業を進めています。

また、先行的事業については、四件の研究事業プロジェクトを引き続き着実に実施するとともに、十一月及び来年二月に第二回・第三回の国際ワークショップの開催を予定しています。

さらに、施設整備については、施設整備委員会を立ち上げるなど、基本設計の開始に向けた諸作業を実施していくこととしています。

## 5 おわりに

本年度は、構想の事業化や、学長予定者の選考、ボード・オブ・ガバナーズ会合の開催を経て、構想の推進が新たな段階に入りました。

来年度は、整備法人を設立し、そこが大学の開学に向けた条件整備を行うという更に次の段階に進むこととなります。内閣府は、こうした次の段階における作業が円滑かつ確実に進むよう、適切な支援を行ってまいります。



第1回国際ワークショップの模様

## 3 ボード・オブ・ガバナーズ会合の開催

今年七月十三日、構想を推進する上での重要事項について審議する茂木大臣主催の第一回ボード・オブ・

ガバナーズ会合が都内のホテルで開催されました。この会合においては、二〇〇二年にノーベル生理学・医学賞を受賞されたシドニー・ブレナー博士（写真右端）